

日本の原子力技術者を海外に「輸出」するプロジェクトが進んでいる。まずは原発建設を急ピッチで進める中国と近く協定を結び、プラント会社や電力会社の現役・OBらの人材を派遣するという。安全面で評価の高い日本の原発技術を広めるとともに、人脈づくりを通じて、市場参入の糸口にした

い考えた。
技術者の転職を支援する「日本技術者連盟」（星野克美会長）が窓口になり、今年1月に「国際原子力発電技術移転機構」を発足させた。技術者を募

原発人材 中国に「輸出」

連盟、技術力で人脈づくり期待

集したところ、すでにOBを中心に100人程度が登録されているという。派遣先としてまず念頭にあるのは中国だ。民間シンクタンクのテピア総合研究所によると、現在11基の原発が運転中で、24基の建設が進む。さらに236基が計画されているという。その一方で中国では人材不足が問題になっている。特に即戦力となる「高級技術者」が足りないのが現状だ。国内では原子力専攻の大卒以上の人材が2020年に1万3千人必要だという予測もある。

（香取啓介）